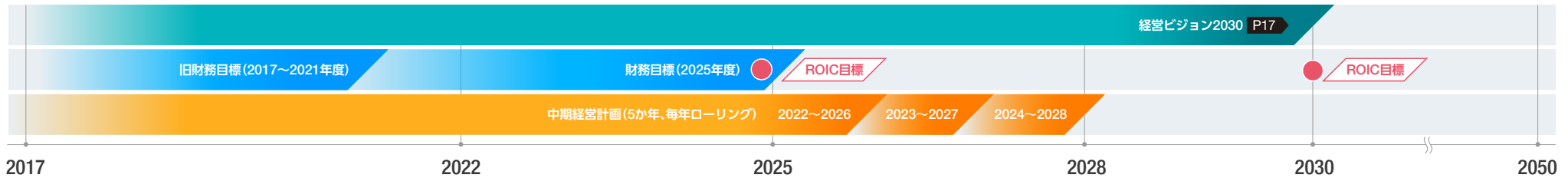


財務目標と中期経営計画



旧財務目標 (2017～21年度) の振り返り

- ・事業の継続・発展に不可欠である財務基盤の回復・強化を図る (連結経常利益、自己資本比率)
- ・中期経営方針に掲げる成長戦略実現に向け、積極的に投資 (成長投資)

の観点から、3つの財務目標を設定

このうち、成長投資については着実に進捗したものの、自己資本比率・連結経常利益については、以下の要因により未達

- ・競争進展に伴う利益率低下
- ・原子力稼働低下
- ・天候不順・新型コロナによる販売電力量減
- ・LNG転売損 等

財務目標	実績
連結経常利益:1,100億円 (2017～21年度平均)	507億円
自己資本比率:20% (2021年度末)	14.0%*
成長投資:4,200億円 (2017～21年度累計)	4,950億円

未達要因を踏まえ、電化の更なる推進や電力販売多様化・成長事業への積極的投資等、多様な取組みを推進し、新たな財務目標達成を目指す

※: ハイブリッド社債 (2020年10月発行) の資本性認定分 (約2%) を含む

2024年度 中期経営計画

中期経営計画は、今後5か年の実行計画として、毎年度ローリングしながら、取りまとめ
燃料価格のボラティリティの高まりなど、事業環境の変化が続く中においても、九電グループが一丸となって持続的に発展していくため、以下の取組み事項を着実に実施

2024年度 中期経営計画の主な取組み事項*

- 国内電気事業における利益最大化の追求
 - 原子力の安全・安定運転の継続、発電・小売それぞれの利益最大化に向けた取組み
- グループ一体となった成長事業の利益拡大
 - 九電グループの強みを活かした取組みの強化
- 財務基盤改善に向けた対応
 - グループ大での資金活用の効率化
- 自律的な運営と効率化の両立を目指した人員計画の策定
 - 自律性の向上、効率化の推進を念頭に、各事業領域の特性に合わせた計画の策定
- サステナビリティ経営の推進
 - 2030年度GHG排出量削減目標に向けた対策の検討

※: 具体的な行動計画は P44 P45 P69 P70 の中期ESG推進計画を参照

〔参考:2024年度業績見通し〕(2024年7月時点)

業績予想	2024年度	2023年度	増減
売上高	22,000	21,394	+606
営業利益	1,300	2,549	▲1,249
経常利益	1,100	2,381	▲1,281
親会社株主に帰属する当期純利益	800	1,664	▲864

「経営ビジョン2030」実現に向けた財務目標

経営ビジョン実現に向けた中間目標として、以下の観点から2025年度をターゲットとする財務目標を設定

- ・「国内電気事業」「成長事業」での利益確保・拡大に挑戦
- ・「財務体質改善」「株主還元の充実」「成長に向けた投資」のバランスを重視

視点	財務目標 (2025年度)
収益性 財務健全性	連結経常利益:1,250億円以上 ・国内電気事業:750億円 ・成長事業:500億円 自己資本比率:20%程度
視点	参考指標 ¹ (2025年度)
収益性	ROE:8%程度 総販売電力量:1,050億kWh
成長性	成長投資:5,000億円 ² ・再エネ (再掲):2,500億円 ² FCF:700億円 (5か年累計で黒字を確保) 発電出力 ・再エネ開発量:400万kW ・海外持分出力:400万kW

*1: 経営上重視する指標等について、財務目標達成時の水準感を示したもの

*2: 2021～2025年度累計

九電グループの更なる企業価値向上に向けたROIC目標

資本効率性の向上を通じて一層の企業価値向上を図る観点から、新たな経営指標としてROIC (投下資本利益率)を導入し、2025年度及び2030年度のROIC目標を設定

年度	目標
2025年度	連結2.5%以上
2030年度	連結3.0%以上

(注) ROIC=経常利益 (利払前・税引後) ÷ 投下資本 (有利子負債+株主資本)